

新型コロナウイルス感染症対策



○目標について

- ・新型コロナウイルスに感染しても、症状のない人が少なくないことから「ウイルスを持ち込まない」ことは不可能である。→水際対策に労力をかけ過ぎない
- ・本校は学級、学年、教科、作業、寄宿舎等、生徒の動きが複雑
→全生徒と職員同士が接触している可能性

⇒「校内にウイルスは持ち込まれている」と「全生徒・職員が接触している」ことを前提に感染対策を行う

○感染対策 三本柱 1手洗い 2身体的距離（ソーシャルディスタンス） 3健康チェック

→三本柱を徹底して行い、その他のことは「環境の工夫」を中心に、できるだけ労力をかけないようにする

新型コロナウイルス感染症対策について

県立沖縄高等特別支援学校長

1 新型コロナウイルス感染症の特徴

- 1) 感染しても症状のない人や症状の軽い人が少なくない
- 2) 感染経路やその対策も含めて、わかっていないことが多い

2 どのように感染するか

- 1) 一般的には飛沫感染、接触感染で感染する
- 2) 閉鎖した空間で、近距離で多くの人と会話するなどの環境では、咳やくしゃみなどの症状がなくても感染を拡大させるリスクがあるとされている
→WHO は、一般に、5分間の会話で1回の咳と同じくらいの飛まつ（約3000個）が飛びと報告

飛沫感染とは：感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つばなど）と一緒にウイルスが放出され、他の方がそのウイルスを口や鼻などから吸い込んで感染すること

接触感染とは：感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスがつく。他の方がそれを触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触ることにより粘膜から感染すること

濃厚接触とは

必要な感染予防策をせずに手で触れること、または対面で互いに手を伸ばしたら届く距離（1m程度）で15分以上接触があった場合に濃厚接触者と考えられる

3 主な感染対策 →感染予防「うつさない」「うつらない」 + ゼロ密（3つの密を避ける）

1) マスク着用

- ・マスクは「飛沫を飛ばさない」ことによる「感染させない」効果が大きい

2) 身体的距離（ソーシャルディスタンス）

- ・マスクをしていても1.5m以上の距離は確保する

3) 手洗い

- ・接触感染の感染源にならない「うつさない」 + 感染予防「うつらない」

4) 健康管理 健康チェック（検温含む）と積極的な休養

5) ゼロ密 3つの密（密閉・密集・密接）を回避する 環境の工夫 + 個人の意識と行動